

2月12日(日)

第2会場

13:50~14:50

国際会議室

心房性不整脈と心房ペーシング

## 【概要】

近年、ペーシング治療分野では、心房ペーシングによる心房性不整脈、とりわけ心房細動抑制のためにさまざまな取り組みが行われている。心房細動成立には、①心房内伝導遅延、②心房筋不応期の短縮とそのばらつきの拡大などの因子が考慮される。このため、ペーシング治療による心房細動抑制には、それらの因子を除去するペーシングが求められる。

現在、心房ペーシングではペーシング部位を工夫することで①の因子を除去（心房内伝導遅延を改善）し、心房細動を抑制する試みが行われているが、P波幅の短縮を可能とするさまざまなレベルでの心房間中隔ペーシングが検討されている。さまざまな施設でさまざまな考え方のもとにバッハマン束近傍、高位心房中隔、低位心房中隔などを含め、ペーシング部位が選択されている。また、P波幅延長は認められるものの有用性を十分認識し、あえて従来の右心耳ペーシングを行っている施設も決して少なくない。

本シンポジウムでは、心房性不整脈を抑制する心房ペーシング部位としてどの領域を選択すべきか？その領域を選択するに至った考え方は？とりわけ、ペーシング部位として心房間中隔を選択した場合、それぞれのレベルでのペーシングリード留置部位をX線透視下にどのように認識しているか？など、日常臨床で悩む部分のディスカッションを行いたい。

〔座長〕井川 修 日本医科大学多摩永山病院循環器内科  
畔上 幸司 横浜市立みなと赤十字病院循環器科

ディベートセッション—心房ペーシング部位を考える—

## 1. ペーシング部位に関連する心房の解剖

日本医科大学多摩永山病院循環器内科 ○井川 修

## 2. 右心耳ペーシングの立場から

横浜市立みなと赤十字病院循環器内科 ○畔上 幸司

## 3. 心房中隔ペーシングの立場から

産業医科大学医学部不整脈先端治療学講座 ○安部 治彦